



—東地中海地域ニュース—

イスラエル：クリントン米国務長官発言とイスラエル閣僚反応

(5日付現地各紙)

5日付イスラエル各紙は、クリントン米国務長官が最近のイスラエル国内の動向を批判し、こうした批判へのイスラエル閣僚の反応について、報じている。

1. 2日、クリントン米国務長官は、ワシントンで開催中のサバン・フォーラムでのスピーチの後半約3分間で、イスラエル内政に関し、以下の発言をした。
 - (1) イスラエルにおいて、NGOへの支援を制限する法案が審議されていることは、理解しがたい。米国は複数の国々において、市民社会の活動促進を働きかけているが、イスラエルで審議されている法案は、相反した動きである。
 - (2) (女性兵士が歌を披露した席上で宗教的な男性兵士が退席したり、一部のバス路線では女性が差別されていたり、昨今イスラエルにおける女性の地位が脅かされているとの報道を引用し) まるでイランのようである。世界におけるイスラエルへの印象の悪さを理解していない。
2. 上記、クリントン長官の発言に対するイスラエル閣僚の反応
 - (1) シュタイニッツ財務省は、クリントン米国務長官の発言は「限度を超えている」と述べた他、「女性の地位の問題は我々も懸念しているが、その問題と民主主義が脅かされているとの主張に関連はない」と発言した。
 - (2) エルダン環境相は「国民により選ばれた公人は、自国の問題に集中すべき」と述べた。
 - (3) イシャイ内務相は「イスラエルは中東唯一の民主主義国家である。全ては法の下で行われるのであり、懸念することはない」と述べた。